

# 令和4年度全国学力学習状況調査報告分析結果

## 〈教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析〉

### ○国語の調査結果にみられる特徴と現状

すべての項目で全国平均を上回っています。特に読むことの項目が過去3年間と比べても数値が高いことです。じっくり読み解く問題を得意とする生徒が多い結果だと思います。また、コロナ禍で文章読解に関する授業が多かったことも結果につながったと思います。課題としては読むこと以外の数値が年々下がっていることです。記述式や書くことの項目を改善するために、国語科の教員の共通理解はもちろん、他教科の教員も現状を把握し、日々の生活記録を文章でわかりやすく書くこと等、書く習慣を身につけることから行っていきたいと思っています。

### ○数学の調査結果にみられる特徴と現状

すべての項目で全国平均を上回っています。数学科の先生が進度を合わせ、授業を展開していることです。上位層の生徒たちのことを考え、インプットしたことを苦手な生徒にアウトプットする時間を設け、説明する場面をつくったことが、更に深い学びに繋がっていると思います。課題は、過去3年間に比べるとほとんどの項目が下がっていることです。まずは、数学科の教員が生徒の実態に応じて基本に返り既習事項の定着を図るよう努力していきます。

## 〈質問紙調査の結果にみられる特徴と現状分析〉

### ○生徒質問紙調査結果にみられる成果と課題

国語・数学・理科に対する関心の項目の値が全国平均を下回っていました。各教科で教科担任が学び合いや説明する活動を取り入れるなど工夫した授業を行っていますが、苦手な生徒の学習意欲を湧き出せないということが分かりました。また、自己有用感が低いということから、苦手な生徒でも「わかった」という実感が得られる授業をしなければならぬということが分かりました。今後、授業研修や教科部会で協議し、教職員全員で改善していきます。

## 〈改善策・検証方法〉

### ○改善目標

- ①国語の記述式や書くことの項目の値を上げる。
- ②家庭や地域との連携の項目の値を上げる。
- ③国語・数学への関心、自己有用感の項目の値を上げる。

### ○改善方策

- ①国語科の教員や教職員全員が現状を把握し、日々の生活記録を文章でわかりやすく書くこと等、書く習慣を身につける活動を重視し、国語科だけでなく、各教科文章で表現するよう指導していきます。
- ②コロナ禍でも連携を図れるように、教職員がオンラインで繋がれる方法を学びます。また、講師を招聘し、家庭や地域の方との連携方法を模索していきます。
- ③苦手な生徒も主体的に学習に取り組み「わかった」「できた」と思える授業をめざします。そのために週1回授業の始めに復習を兼ねた簡単な小テストを行い、既習事項の定着を確認する等苦手な生徒でも達成感を味わえる取り組みをしていきます。

### ○検証方法

- ①全国学力・学習状況調査や定期テスト等を使って評価していきます。また、授業の中で小テストを行い、評価していきます。
- ②③2, 3学期末に生徒にアンケートを取り、評価してもらいます。教職員には学校評価アンケート等を活用し、リフレクションします。